

「本当のオーディオ好きの 10 人が自腹で市民ホールを丸一日借りきって、100 万円超の高級セパレートアンプと 3 万円のプリメインアンプをブラインド比較するという恐ろしすぎる実験レポート」

音工房 Z

大山美樹音著



■ 著作権について

「本当のオーディオ好きの10人が自腹で市民ホールを丸一日借りきって、100万円超の高級セパレートアンプと3万円のプリメインアンプをブラインド比較するという恐ろしすぎる実験レポート」PDF版(以下、本冊子という)は、著作権で保護されている著作物にあたります。本冊子の取り扱いについては、下記の点にご注意ください。

1. 本冊子の著作権は、大山美樹音(本名:安達真)にあります。
2. 2.の書面による事前許可なく、本冊子の一部または全部を、印刷物、電子ファイル、ビデオ、テープレコーダー、ホームページ等のあらゆるデータ蓄積手段により複製、流用、転載、翻訳、転売(オークションを含む)等を行うことを禁止します。

■ 使用許諾契約書

本契約は、本冊子をダウンロードした個人、法人(以下、甲と称す)と株式会社音工房Zの大山(以下乙、と称す)との間で合意した契約です。本冊子をクライアントが受け取りファイルを開いた時点で、クライアントはこの契約に合意したことになります。

第1条 本契約の目的

乙が著作権を有する本冊子に含まれる情報を、本契約に基づき甲が非独占的に使用する権利を許諾するものです。

第2条 禁止事項

本冊子に含まれる情報は、著作権法によって保護されています。甲は本教材から得た情報を、著者への書面による事前許可なく出版、講演活動及び電子メディアによる配信等により一般公開することを禁じます。特に本冊子を第三者に譲渡することは固く禁止いたします。甲は自らの事業、所属会社及び関連組織、印刷物、電子ファイル、ビデオ、テープレコーダー、ホームページ等のあらゆるデータ蓄積手段により複製、流用、転載、翻訳、転売(オークションを含む)等を行うことを禁止します。甲は自らの事業、所属する会社及び関連組織においてのみ本冊子に含まれる情報を使用できるものとします。



第3条 契約の解除

甲が本契約に違反したと乙が判断した場合には、乙は使用許諾契約書を解除することができるものとします。

第4条 損害賠償

甲が本契約の第2条に違反した場合、本契約の解除に関わらず、甲は乙に対し、その違約金として違反件数に、3万円を乗じた金額を支払うものとします。（※各ファイルには固有のID及び固有のパスワードを設定しています。）

第5条 責任の範囲

本冊子の情報の一切の責任は甲にあり、この情報を使って損害が生じたとしても、著者は一切の責任を負いません。

第6条 リンク先での商品購入について

本冊子のリンク先には本冊子とアフィリエイトプログラムを提携したサイトがあるが、著者が実際に販売を行っているサイトは <http://z-sound.biz/> だけです。リンク先サイトで商品を購入される際はクライアントとリンク先サイトとの契約であり、万が一トラブルが発生しても著者は一切の責任を負いません。

■ メールマガジンへの登録

本レポートをダウンロードしていただいた方には毎月1～5回執筆していますメールマガジン「108万円の音をGetするメルマガ」を配信させていただいております。



目次

- はじめに
- オーディオ機器を純粹客観比較することの難しさ
- 利用した部屋、機器、ソース
- 午前中のソース選びで分かった瞬時比較でのアンプの違い
- 午後に行われた本番のテストの方法
- 結局アンプで音は変わるのか?? (ブラインドテストの結果)
- DENON の音と YAMAHA の音
- 3 万円のアンプと 100 万円のアンプで最も違いがでたのは▲▲という帯域、そして音圧を●●●した時でした。また■●■によっても変化の度合いが激変でした。
- 100 万円のアンプと 3 万円のアンプのコストパフォーマンス考 (33 倍音が良いと言えるのか?)
- どのアンプを買おうか迷っているあなたに送る。ショップで比較試聴する時の注意点。大山からの一言アドバイス
- 実験中にほぼ全ての参加者が同意した!! オーディオファンであれば知らないと損する 0 円で音が 100 倍良くなる技術。小学 1 年生でもできる。「●●●●●●●●●●」
- 今回の実験を通じて再認識した音工房 Z の基本哲学、音作りについて。オーディオのどこに 1 番お金をかけるべきなのか。
- 今回の実験に参加してくれた人のレポート&ブログ記事
- 最後に



はじめに

2012年9月17日に「スピーカー再生技術研究会」のメンバーが立ち上げた「ガラパゴスの会」が主催するイベントに参加させていただきました。

このイベントの趣旨は

「100万円以上超高級アンプと3万円の普及価格帯の違いをブラインドテストして違いが果たして認識できるのか??」

というテーマをメンバーの1人が提起され、それでは実際に実験してみようではないか!!ということで、10人のメンバーが東京都三鷹市にある市民会館の音楽練習室を丸一日借りきって、実験を行いました。

この実験結果は日頃スピーカーの設計製造販売をさせていただいている私にとりましても非常に興味深いもので、ブラインドテストで得られた結果・その時率直に感じた感想・実験に参加された皆様のその時の生の声を率直にこのレポートをZのユーザー様や、メルマガ読者様にもお伝えしたくペンをとりました。

オーディオ機器を純粹客観比較することの難しさ

この実験レポートに参加されたメンバーの方はMCAPの鈴木さんをはじめ理数系の知識技術をお持ちの方が多数いらっしゃいまして、実験は私が当初考えていたよりか厳密な形でのテストが行われました。

しかし客観性を重視したオーディオのテストはやってみると分かると思いますが本当に本当に難しく（実質不可能なのだと思います）、今回のテストでも正直に言えば「条件しだいでいくらでも結果は変わりうる」ということが分かっただけなのかもしれません。

今回のテストでは音楽を流す人と聞く人（被験者）が別の人が行いその操作がわからないようするのはもちろんのこと、SN比が抜群の部屋で、テスターを使いスピーカーに掛けた電圧を調べた上で各アンプの音圧を揃え、ランダムにアンプを変えて同じソースを9回流してアンプの違いとメーカー名を当てるといったものです。

オーディオショップで店員が適当にAというアンプとBというアンプをセレクターでかちやかちや切り替える程度のテストや雑誌で

行われている比較テストに比べれば相当客観性は高いものであった
言えると思います。

しかし、このイベントは学者が集まって厳密なテストや討論を行
うというものでは決してなく仲の良いオーディオ仲間ができる限り
の知識を集めて、みんなで楽しもうという感じのものです。このレ
ポートの結果については当日行われた状況、そして私が感じたこと
をできるだけ正確に記載していくつもりですが、テスト自体の方法
や母集団の少なさなど客観性においては十分なものとは決して言え
ません。ですのでこのレポート内容に学術的な観点から異論・反論
をお持ちで長文のメールを私もしくはガラパゴスの会のメンバーに
送られても対応は出来かねますのでご了承のほどよろしくお願いい
たします。



利用した機器、ソース、部屋

■利用したアンプ

1つ目 LUXMA M-600A

LUXMAN C-600F

(100万超えのセパレートアンプ)

2つ目 DENON PMA390IV

(当時販売価格3万円程度のプリメインアンプ)

3つ目 YAMAHA A-S300

(販売価格3万円程度のプリメインアンプ)

4つ目 RAYMAX K-6V6 ※音圧合わせができず利用しませんでした

(3万円程度の真空管アンプキット)

■利用したスピーカー

鈴木さんの MCAP 型自作スピーカー (Feastrex ユニット使用)

■テストに使用したソース

午前中に4枚のソースを選択したのですが、実際に使用したのは

Eagles の「ホテルカリフォルニア」だけになりました。

■テストに使用した部屋

三鷹市芸術文化センター 音楽練習室 3



↑ 100 万超えの高級セパレートアンプ



↑ 3 万円代の入門機と言われているアンプ



↑午前中に4枚のソースを選ぶも実際使用したのはEaglesのホテルカリフォルニアだけに・・



↑鈴木さん自作のMCAP型スピーカー。高級フルレンジユニットを搭載しています。

午前中のソース選びで分かった瞬時比較でのアンプの違い

午前 9 時ごろに三鷹の市民ホールに集まり、メンバーの皆様が持ち合わせた機器のセッティングを午前中に行い、午後から本番のテストをするという段取りを会長の鈴木さんは想定されていました。



メンバーの皆様がセレクターやアンプ、ケーブルなどを手際よくセッティングしていきます。

機器のセッティングを終えた後にテストに使う 4 枚のソースを決めていきました。メンバーはオーディオ好きな方ばかりですから各自視聴用に使う定番のソースを持ち寄り 20 枚ぐらいかけながら 4 枚

のソースを決定していきました。この時点でアンプは①Luxman の100万円のセパレートアンプと、②DENON の3万円のプリメインアンプ、③YAMAHA のプリメインアンプの3つをセクターでかちやかちや切り替えて視聴できるので、メンバーの皆さんは瞬時切り替えでのアンプの音の違いに興味シンシンに聞き込みました。この時点ではどのアンプが鳴っているかというのをメンバーが知っていながら聞いています。

このソース決めの時点で非常に大きな気づきがたくさんありましたのでその時にメモした点を箇条書きにしてみます。

★ソース（CD）によってアンプの違いが大きくでるものとでないものの差があまりに大きく感じました。違いがでるものは瞬時に違いが私には分かりましたが、違いがわからないソースは正直全く違いが認識できなかつたです。ソースを変えることによってアンプの差が大きくなったり、小さかったりしたのには驚きでした。これは参加されたメンバー同意見をもたれた方が多いようです。結果的に選んだ4枚のソースはアンプの差が認識しやすいものを選びました。

★この時点では私は価格云々は抜きにして LUXMAN かそれ以外かは午後に行われるブラインドテストでも「認識できる」という感想を持ちました。(YAMAHA と DENON の違いはブラインドテストでは認識できないと思いました。)

LUXMAN の 100 万円のアンプは音に温かみがあって柔らかく、トゲがないというか、長く聞いていても疲れなような音でした。DENON と YAMAHA の音は LUXMAN に比べると結構対極的で低域の押し出しが強く、高域もキラキラ感が強く感じました。この DENON と YAMAHA の音の違いは後に主観的な音の違いを述べますが非常に近寄っているという印象でした。

★音圧が大きいほどよりアンプの違いをより認識できました。

これはオーディオで違いを知るときには非常に大事なことです、音が大きいほど違いがわかりやすいです。スピーカーのテストをする時は違いを際立たせるために大音量でどうしてもテストをしますが、アンプでも同じです。スピーカー、アンプ、プレーヤーその他無数のアクセサリがありますが違いを知るにはそこそこ音を大きくしないと分かりにくいです。

午後に行われた本番のテストの方法

本番のブラインドテスト前にまず3台のアンプの音圧を揃えるという作業に結構時間がかかりました。アンプやスピーカーはAB比較でテストをする時は音がちょっとでも大きいほうが「良い音」と感じてしまうことが分かっていますのでこの作業は非常に重要です。

アンプの音圧を揃えるのはスピーカーにサインウェーブを入れてテスターで電圧を揃えるという方法がとられました。



この方法で人間の耳の聴感上は全く同じ音圧に聞こえるところまでもってることができましたが、実際の電圧はボリュームのつまみをほんの僅か動かただけで電圧が変わってしまっって完全一致とま

ではいけませんでした。(詳しいデータは末尾の鈴木さんのレポート
をご参照ください)

テストは先に述べた3台のアンプの違いを聞き分けられるかとい
うものです。まずはじめに1回だけ予め決めた同一のソースで3つ
のアンプの音かけます。この時はどのアンプを使ったのかを被験者
に伝えます。

続いて本番のブラインドテストにはいります。どのアンプが鳴ら
されているかわからない状態にして音楽を2分かけます。音楽が終
わったら3台のアンプを被験者にわからないようにコントロールす
る人が切り替えます(もしくは切り替えないでそのままにします。)
音楽をまた2分かけます・・・。同じことを9回繰り返します。



ランダムにアンプを鳴らすのを被験者に見えないようにダンボールで手元を見えないように隠してあります。

被験者は前回とアンプが変わったかそれとも同じだったかという点を紙に記入、さらに現在どのメーカーのアンプが鳴っていたかを紙に記入していきます。



次のページの写真は大山が記入した用紙です。「モデル」のところにアンプ YAMAHA、DENON、LUXMAN の頭文字を記入。「前回との差」はアンプが変更されていた場合は Y を変更されていないと思った場合は N を書きます。

氏名: 大山 聴取位置: 前列中央左

ソース:

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9
モデル									
評価	5								
前回との差	-								

コメント:

Yes NO

ソース:

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9
モデル									
評価	5								
前回との差	-								

コメント:

ソース:

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9
モデル									

このテストは午前に機器の調整を終えた後にたった1枚のソースだけの実験をやって終わりになってしまいました。本当はソース4枚で実験する予定で、つまり4×9の36回ソースをかけて9人の統計データをとるつもりでした。1枚のソースで終えなければならなかった理由は1つのアンプの調子が悪く音がでなくなってしまったからです。このテストの結果は次の章で詳しく解説します。

結局アンプで音は変わるのか?? (ブラインドテストの結果)

ブラインドテストは残念ながら 9 回 CD を聞いて終わりになりましたがあと 3 枚 CD をかけることができればもっと精度の高いものになったとは思いますが。

3. 試験の結果

試験の結果を表 4 に示す。

表 4 試験結果

試行(切替)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	正答率
↓座席/アンプ→	C	B	B	A	C	C	A	B	A	
A1	-	1	0	0	1	0	1	1	0	50.0%
A3	-	1	0	1	1	1	1	1	1	87.5%
A4	-	0	1	0	1	1	0	0	0	37.5%
A5	-	1	0	0	1	0	1	1	1	62.5%
B1	-	1	1	1	1	0	1	0	1	75.0%
B2	-	1	1	1	1	0	1	1	1	87.5%
B3	-	1	1	1	1	0	0	1	1	75.0%
B4	-	1	0	0	1	0	1	0	1	50.0%
B5	-	1	1	1	0	0	1	1	1	75.0%
正答率	-	88.9%	55.6%	55.6%	88.9%	22.2%	77.8%	66.7%	77.8%	66.7%
正答率累積平均	-	88.9%	72.2%	66.7%	72.2%	62.2%	64.8%	65.1%	66.7%	
出力変化	-	0.026	0.000	-0.018	-0.009	0.000	0.009	0.018	-0.018	

テストの結果は用紙を回収して統計処理をされた鈴木さんのレポートから引用させていただきました。↑の表はどのアンプか当てたというのではなく、「前回との差」つまりアンプが切り替わったか切り替わっていないかを当てられたかというものです。

先にも述べましたが、ソースや音圧によってアンプの差が変わる上、各人の耳の検知能力にも差があるでしょうし、取得したデータ

の数が少ないですのでこのデータだけから何かしらの結論を導きだすのは難しいかもしれませんが、今回の条件のもとだけの話ですが67%の平均値というのは「アンプの違いは目隠しされた状態でも認識できる率のほうが高いが、完全に当てられるというわけではない」というところでしょうか。

この67%という正解率より私がここも得られた私の大きな気づきは、「自分がアンプをコントロールしていると（どのアンプが鳴っているか知っている）違いが完全に分かったという気になっていたが、ブラインドになった途端に全く自信がなくなる」ということでした。

ちなみに私の自分の答えはアンプの検知も変化は9問中8問正解で

Handwritten test results on a piece of paper. The first section is for 'Hotel California' (Pattern 6) with handwritten answers and a 'Yes/No' column. The second section is for 'Action Finger' with a grid for answers.

氏名:	大山								
ソース:	Hotel California								
聴取位置:	前列中央左								
Pattern	6								
番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9
モデル	FC	AB	AB	A	C	A	A	B	A
評価	5								
前回の差	-	Y	N	Y	Y	Y	N	Y	Y
コメント:									
Yes/No									
ソース:	Action Finger								
番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9
モデル									
評価	5								
前回の差	-								
コメント:									
ソース:									
番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9



したが、これはかなりまぐれの的な正解で回答には自信がなかったのです。おそらく 2 枚目の CD を実験していたらこれだけの正答率ではなかったのではないかと思います。

これはこのとき参加されていたメンバーの方々も近い感想を持たれた方が多いようでして、午前中にアンプを知らされてテストしているときは「違いがある」と考えられていた方もブラインドのテストになると結果に自信を持っておられた方は 1 人もいらっしゃらないような印象でした。(100%の正解を出せた人は 1 人もいませんでした) 皆ブラインドテスト終了後には「違いがよくわからないなー」という感想というかため息というかが多かった気がします。

DENON の音と YAMAHA の音

ここから先は主に私が主観的に感じた音の違い、オーディオの選択方法などを述べてみたいと思います。

DENON と YAMAHA のプリメインアンプですが、前に述べたとおり非常に違いは僅かで認知するのが難しかったです。個人的には YAMAHA のほうが若干ハイ上がり・低域は量感が多めながらもキレが良かった印象です。強力なマグネットの FOSTEX ユニットのバックロードホーンの音を聞いている印象でした。一方デノン傾向は似ているのだけれど高域は若干ヤマハよりかはおさえ気味で低域は量感はほとんど変わらずキレだけが劣るような感じでした。どちらも安価な入門機でしたが、普通に音楽を聞くには十分な実力を備えている機種だなと思います。

↑のレビューを見て意味がさっぱり分からない方も多いと思いますが(笑)、これは瞬時比較の時に感じた感想でブラインドテストではほとんど違いがわかりませんでした。つまり今回の機種に関してだけ言えば3万円のデノンとヤマハの違いはほとんどなかったと言えると思います。

3万円のアンプと100万円のアンプで最も違いがでたのは「高域」

という帯域、そして音圧を「大きく」した時でした。また「ソー

ス」によっても変化の度合いが激変でした。

伏字にした部分の答えはこれまでに書いたコンテンツの中でも書いていますね。「音圧」と「ソース」によってアンプの違いが大きく感じる場合と感じない場合があります。(ここから読み出された方は前に戻ってお読みください。)

あと一つだけまだ書いていない項目がありました。それは低域よりか「高域」のほうが音の違いが明確にでました。これは午前中に20枚ぐらいのソースを視聴しているときにいろんな人が口々に言われたことで私もそう感じました。(ここは異論のある方も多いと思います。特に超低域はアンプの実力差が一番でるところだと私も信じていましたので。)

オーディオファンの間では有名なピンクフロイトの「Dark side of the moon」というCDがあります。このCDの1曲目の冒頭には心臓の音といって20Hzの信号がはいっているというのが有名で評論家の長岡鉄男先生も本に書かれています。この1曲目を

かけながら 3 台のアンプをかちやかちや変えて何回か聞いてみる
も変化はほんの僅かに感じました。しかし、4 曲目の冒頭で教会の



鐘が 3 次元的になる音楽があるのですが、こっちはアンプを変える
と音が全く違って聞こえました。この鐘が鳴る部分はかなり高いと
ころの帯域まで入っているものと思われます。

また女性ボーカルも何人か聞きましたが、低めのをだすボーカ
リストより、高い声をだすボーカリストのほうがアンプの違いが明
確にわかりました。テストに使った「ホテルカリフォルニア」はこ
れもオーディオファンに有名なソースで曲の冒頭にエンジニアが
強引に膨らませた低域がよく聞かれるのですが、それ以外の部分に
高域も入っています。私はブラインドテストの時は主に低域は無視
して高域の部分だけで聞き分けようとしていました。

100 万円のアンプの 3 万円のアンプのコストパフォーマンス考

(33 倍音が良いと言えるのか?)

個人的にはブラインドテストの結果が示すとおり目隠しされてしまうと音を 100% 言い当てるのが難しかったです (今回の平均値は 66.7%、大山 87.5% の正解率でした)。目隠しされた状態では私自身も全く自信をもって今 100 万円のアンプを使っているということと言えなかったのです。ということはつまり、100 万円のアンプと 3 万円のアンプの音の違いがわからないのなら「100 万円のアンプを買うことは馬鹿げていること」という結論になりそうですが、私はそうは思いませんでした。

その前に音のコストパフォーマンスという話だけをすると安価なアンプに圧倒的な分があると思います。3 万円のアンプは 100 万のアンプの 1/33 の実力しかないことはありえないからです。しかしレポートの一番最初にも書きましたがアンプの違いを知るための客観的なテストは簡単ではありません。「音圧」「ソース」「帯域」によって変化の度合いが違ううえ、今回は「部屋」と「スピーカー」というオーディオで最も大きいところは全て同じ条件にしていま

す。十分有り得る話ですが、「部屋」や「スピーカー」を変えてもそれはアンプの違いは大きくなったり小さくなったりするでしょうから。だから今回の視聴条件で得たデータはほとんど意味がない数値なのかもしれません。

今回の「LUXMAN」の最高級セパレートアンプですが、主観的に音の傾向を言うと「DENON」「YAMAHA」の2つは音が近寄っていて、100万超えの「LUXMAN」だけは別ものに聞こえました。

「LUXMAN」温かみがあって角がない音で、音圧を上げてても煩くならないような音でした。これは他のアンプをたくさんテストしないとわかりませんが、このような傾向の音が高級アンプ特有なものなのか否かはわかりませんが、安価なものとは違ったのだけは確かです。参加者の多くの方も価格云々は抜きにしてLUXMANとそれ以外は違いがわかりやすかったという意見が多かったです。(詳しくはページ終わりの参加者のブログをご覧ください)。ここまでは純粹に音の話だけで書きましたが、アンプ選びは「デザイン」「アフターサポート」「持つことの満足感」「機能」だったりもしますので総合的なコストパフォーマンスを言うのは非常に難しいですね。

アンプを迷っているあなたに送る。大山からの一言アドバイス

今回の実験はほかからの雑音が全くない理想的な環境で、音圧を揃え、ブラインドでテストをするという方法でしたが、これでもまだまだ客観的とは全然完璧とは言えない状態です。雑音が多いオーディオショップでの比較はこれよりか条件がよくないのでさらに難しいと思います。もしそれでもオーディオショップで比較試聴して決めたいという方には今回のレポートから参考になる点がいくつかあると思います。

★ソースはよく聞くものを1枚ではなくたくさん持参する

★音圧をあげられるだけ上げさせてもらう

★AB 比較をする場合は音量を耳で厳密に同じに合わせる

★店員に機種名を自分にわからないようにきり替えてもらう。

★ソースの中では特に高域に意識してみる

もうひとつのアンプ購入の方法ですが、今回のレポートでたように目隠しされると自信をもってアンプの違いがわからないのであ

れば音を一切無視して大丈夫と考え、

「デザイン」「価格」「アフターフォロー」「機能」「ブランドイメージ」だけで買ってもよいのだとおもいます。日本のオーディオブランドであればまず大丈夫だと思います。

また有名な日本のアンプメーカーについて一言。アキュフェーズのアフターフォローは今まで悪くいう人は一人も知りません。よく聞く話ではアキュフェーズは開業時から販売したアンプを全て修理してくれるそうで、これは凄いことだと思います。(本当かどうかはご購入前にご確認ください) また私が持参した DENON の 390 というロングセラーのアンプは10年近く使っていますが全くガリもせず本当に良い商品だと思います。音も気に入っています。サンスイの中古のアンプはまだオークションで販売されていますね。サンスイはご存知のとおりもうなくなってしまいましたが、昔の技術者が修理してくれる会社 <http://www.aqua-audiolab.com/>があるので安心してオーバーホールにだせそうです。

実験中にほぼ全ての参加者が同意した！！オーディオファンで

あれば知らないと損する 0 円で音が 100 倍良くなる技術。小学 1

年生でもできる。「●●●●●●●●」

答えはアンプのウォーミングアップ（電源を入れて温めること）です。今回の実験での気づきの一つはこのウォーミングアップでした。アンプのウォーミングアップの重要性はこれまで知識としては分かっていましたが、ここまで音が大きく変化したのを意識できたのは今回が初めてでした。何しろ電源を入れ始めてから 2 時間ぐらひひたすらアンプをセクターで切り替えて音出しをするということは初めての経験でしたので・・・個人的な感想は音の聴き始めはどのアンプもローエンドから低域、そして中低域の量感が少なく、音もなめらかではなかったのがどんどん音が良くなってきたのです。

（低域の量感は部屋の印象から少なめではありましたが）10 時ぐらひにセッティングを終了してお昼ごろにはだいたい音が落ち着いてきた印象でしたの最低でも 1 時間程度、理想的には 2 時間ぐらひは電源を入れてから音出しをするとアンプは最高のパフォーマンスを発揮すると思います。

今回の実験を通じて再認識した音工房 Z の基本哲学、音作りについて。オーディオのどこに 1 番お金をかけるべきなのか。

今回のアンプに特化した実験を通じて私が今後どのようなスピーカーや商品を作っていくのかということを真剣に考えさせられました。

これまでの私のオーディオの考えはオーディオの下流にあたる「部屋」と「スピーカー」を重視する考えでしたが、これは今でもやはり変わりはありません。今回のレポートはアンプに特化したものだったので、「スピーカー」と「部屋」にはほとんど言及しませんでした。最後にちょこっと書きたいと思います。

まず鈴木さんが制作された MCAP 型のスピーカーは他でも聞いていましたが非常に完成度が高くローエンドから中低域にかけて綺麗にフラットにでる印象でした。ユニットの高域も綺麗でした。しかし、部屋は SN は抜群によかったですが中低域の吸音が多めで低域が不足するような部屋でした。部屋の高域は若干癖がありましたがそれほどおかしい感じはしませんでした。

もし私がこの部屋と機材でどこを改善するかと言えば・・・

もしお金が大量にあって部屋を作り直せるなら壁や天井の吸音素材をなんとかすると思います。ここがオーディオ全体で考えた時に最も音を良くできるポイントだと思うからです。

もし部屋を改造できるなんていうお金がないというのであれば、部屋の特性に合わせて低域の量感を膨らましたスピーカーのチューニングを変更をするというのが一番現実的でしょう。

おそらく音の骨格はここでほぼ決まってしまうと思うし、逆にいえばこの骨格は「アンプ」や「オーディオアクセサリ」ではどうすることもできないからです（電氣的に特定の帯域を持ち上げるというのは別の話として・・・）の「部屋」と「スピーカー」の相性をあわせるという作業がやはり良い音作りには絶対だと思います。

アンプについては??

「部屋」と「スピーカー」の重要性よりは下位ですが、私は以前思っていたよりかは意外と大事だと思うようになりました。実験結果

からは矛盾するように思われるかもしれませんが、アンプは条件によつてはやはり音の違いははっきりと分かりましたしソースによつては確実に相性が良いものと悪いものがあると思えたからです。Zのユーザー様からもアンプのご質問は非常に多いので、さらにいろんな実験をしていかないといけないなと思っています。



今回の実験に参加してくれた人のレポート&ブログ記事

■MCAP 鈴木さんのブログ (Personal Audio Laboratory)

ブラインドテストオフ会 <http://mcap.exblog.jp/16426942/>

2012/9/23

■MCAP 鈴木さんのレポート<PDF レポートです>

http://rilsrt.web.fc2.com/documents/blind-test_report1.pdf

■Kさんのブログ (オーディオ奮闘日記)

ブラインドテスト 2012/9/20

<http://milestk.blog.fc2.com/blog-entry-90.html>

■Iさんのブログ (ケンのオーディオメモ)

ブラインドテスト 2012/9/18

http://milestone.at.webry.info/201209/article_5.html

最後に

最後までレポートをお読みいただきましてありがとうございます。このレポートが少しでも皆様のオーディオライフのお役に立てれば幸いです。

またこのレポートを書くにあたってその機会を提供してくれたMCAPの会長鈴木さんをはじめメンバーの皆様には深く御礼を申し上げます。高額の機器をご用意いただいたO様、場所を手配してくださったO様、オーディオの深い知識を提供してくださったI様、他見えないところでいろいろなご協力してくださったメンバーの皆様。本当にありがとうございました。このような実験は決して一人ではできないのではなく皆様のオーディオに対しての深い探究心と知識、そして行動力がなければできなかつたと思います。ここに改めて感謝を申し上げます。



大山美樹音 おおやまみきお

(本名 安達真)

最後に今回のレポートはいかがでしたでしょうか？皆様のオーディオライフに少しでもお役に立てる情報をご提供できていれば幸いです。最後に私の仕事について一言。私は長くスピーカーを自作するという趣味をもっておりましたが現在は完全に趣味が高じて、自作 SP を設計・販売する音工房 Z という会社をやっております。スピーカーを自作してハイエンドクラスに迫るコストパフォーマンスの高いスピーカーを生み出してゆくことこそが私の使命と思い日々仕事に励んでおります。「スピーカーの自作でどんな凄い音がでるのだろう???'と少し興味を持ってくれた方は音工房のホームページ

<http://otokoubouz.com/>

をたまに覗いてみていただけたら幸いです。

(株)音工房 Z 代表 大山美樹音 (本名 安達真)

